

— 人類の起源に迫る —

## 人類進化の舞台としての西アジア (レバント)



デデリエ洞窟からアフリン川を望む

理学系研究科 生物科学専攻 近藤 修 教授

ヒトはおよそ 700 万年前アフリカで誕生し、いくつかの種がアフリカのなかで生まれては消え、200 万年前以降ホモ属の段階になってユーラシア大陸へ拡散していったと考えられています。そして我々現生人類、ホモ・サピエンスはおよそ 20 万年前にアフリカの 1 グループから派生し、10 万年前以降、

アフリカからユーラシア大陸へと広がり、さらにはオーストラリア、アメリカ新大陸へとその生息範囲を広げていったようです。

このように、人類のアフリカからユーラシア大陸への拡散というイベントは、700 万年の進化のなかでのメインイベントとして位置づけられます。この

---

拡散経路の中心にあたるのが西アジアであります。

他方，“レバント”は農耕・牧畜の発祥の地でありメソポタミア文明を育んだ土地としても知られています。

西アジア、レバントという土地はこのように人類拡散の交差点という進化的側面と、農耕・牧畜革命、文明発祥の地というホモ・サピエンスの行動・文化的側面の両面から人類学上非常に興味深いフィールドです。

我々日本・シリア調査隊はここ 10 数年間シリアのデデリエ洞窟を発掘し、レバントの人類史の構築に貢献しています。本講演ではフィールドワークにかかわる複数分野での成果をわかりやすく紹介いたします。

デデリエ洞窟の発掘調査からは、上にあげた 2 つの側面のそれぞれに対応した成果が生まれつつあります。

人類拡散の交差点に関する成果として、この地域のネアンデルタールと現代型ホモ・サピエンスの解剖学的特徴と文化・行動学的特徴に関する事実が示されています。デデリエ洞窟からは 2 個体の子供をふくむ数体のネアンデルタール人骨と、それ

らに伴って彼らが使用した石器、食べ残した動物骨、火の使用跡、植物の種子化石などが見つかっています。もう一方の現代型ホモ・サピエンスは近隣のイスラエルの遺跡から見つかっていますが、彼らとの解剖学的、行動・文化的異同が明らかにされつつあります。人類進化の舞台ではこのあと現代型ホモ・サピエンスは我々現代人へとつながるのに対し、ネアンデルタールは姿を消してしまいます。いったいどのような差異が要因となって、この2つのヒト集団の未来を変えてしまったのでしょうか？ 最終的な答えに到達するのは容易ではありませんが、少しずつ詳細は明らかになってきています。

もう一つ、デデリエ洞窟からはホモ・サピエンス以降の農耕革命期に関わるデータも生まれつつあります。最近の発掘で、約 1 万年前の続旧石器時代に属する住居跡が洞窟入り口部から発見されました。同時に、石器、石製品、骨角器、動物・植物化石、炉跡などが検出されました。詳細は各分野の研究結果を待たなくてははいけませんが、同時期のこの地域の人間活動・文化にかんする変異・多様性に関して新たなデータとなることは間違いないでしょう。